
記憶の中で

櫻井雪花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

記憶の中で

【Zコード】

Z3814M

【作者名】

櫻井雪花

【あらすじ】

専門学生の千香子はフォトグラファーの秋山聖に
一瞬にして惹かれる。

年齢差20歳の千香子と聖のせつないラブストーリー。

プロローグ

菅原千香子はその男から目が離せなかつた。

舞台上に上がり、話し始めた彼を見た瞬間、何か見えないものに引き寄せられているかのように

千香子は彼の瞳にくぎ付けになつた。

彼の瞳は迷いが感じられず、強い意志を持つた瞳だつた。

目を反らそうとしても自分の意思では動けない、まるで自分が人形になつてしまつたような感覚に陥つた。

彼が頭を下げて舞台裏へ戻つていくと、しばらくしてやつと千香子は呪縛が解かれた。

ふと腕時計を見ると、針は11時53分を指示していた。たしか11時開演だつたから、もう50分も経つてしまつたのだろうか。

千香子は手元のパンフレットを見た。

「フォトグラファーの……秋山……セイ？」

舞台上に立つた男の目の前が一瞬真っ白になつた。

秋山聖は会場を埋め尽くす人の山に驚いた。

同時にとてつもない緊張の波が彼を襲つた。そして、体全体がガクガクと小刻みに震えだした。

多くてせいぜい30人ぐらいだろうと踏んでいたが、予想外の人数に圧倒され、自分の考えの甘さを悔やんだ。

後悔先に立たずとはこの事か。

今すぐにでも、この舞台から逃げ出してしまったかつた。

そして、講演会などなかつたことにしてしまったかつた。逃げ出してしまおうか。

一瞬、秋山の脳裏に邪な考えがよぎる。

その時だった。真ん中の列に座っている少女と目が合った。

それは汚れのない無垢な瞳だった。また、強い期待も感じ取れた。

秋山は改めて会場を見渡した。

さつきは緊張で見えなかつたが、会場を埋め尽くす人はみな、秋山に視線を注いでいる。

誰もが、彼が言葉を発する瞬間を待ち望んでいた。

その光景を見て、彼は思った。

ああ、何考えてんだ俺。俺は自分勝手な考え方で、こんなにも多くの期待を裏切ろうとしていたのか…。

秋山はマイクをつかんだ。いつの間にか体の震えは止まっていた。目をつむつて、深呼吸をした。

その時、時間が止まつたような気がした。

彼は目を開け、口を開いた。

盛大な拍手が鳴り響き、会場全体を包んだ。

その音で秋山は、現在この場所に引き戻された。

体はここに在つても、意識だけが別の空間に飛んでしまつたかのように、

講演中の記憶は全くと言つていい程ない。

だが、拍手の音で安堵が押し寄せ、自然と笑みがこぼれた。

秋山は一礼し、舞台裏へ帰つていつた。

その際、さつき目が合つた女を何気なく見てみた。

女は拍手をしていなかつた。

みんなが鳴りやまんばかりの拍手をしている間、彼女は電池の切れてしまつたおもちゃのように、ただただ、そこに座りつくしていた。

その目は確かに秋山の方に向いていたが、先程のよつた期待の色は感じられず、

その瞳はガラス玉のように綺麗だつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3814m/>

記憶の中で

2010年10月8日21時58分発行